

令和四年度
名寄市立大学
一般選抜 後期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

社会をつくっているのは私たち人間である。言いかえれば、社会の実体は私たち人間、すなわち、いまここで日々生きている人間である。むろん、私たちは、お互い何の関係もなくバラバラに生きているわけではない。親と子、先生と生徒、上司と部下、医者と患者、生産者と消費者などといった何らかの関係をもちながら、互いにもちつもたれつしながら生きている。

(中略)

では、社会の質や中身は何で決まるのか。平たく言えば、その社会が豊かで活力のある住みよい社会かそうでないか、平和で自由でいつまでもそこで生きていたいと思うような社会であるかそうでないかを決めるのは何か。制度や法律だと言う人がいるかもしれない。しかし、制度や法を決めるのは人間である。普段の暮らしで利用できる施設が多くあり、しかも立派で便利であることだと言う人がいるかもしれない。ところが、どんな施設をつくるかどんなサービスを提供するかを決めるのも人間である。要するに、どんな内容の法律をつくるかを決めるのも、どんな施設をつくり、どんなサービスを提供するかを決めるのも人間なのである。したがって、法の良し悪しを決めるのも、施設設備の良し悪しを左右するのも、結局は、その社会をつくっている人間の質にかかることになる。

仮に、社会のほとんどの人たちが自分以外の人間にまったく関心をもっておらず、それゆえ互いに何の関係もつながりももとうとしないような人間だしたら、いくら理に適切な法が整っており、立派な施設をたくさん用意していたとしても、社会の仕組みが適切に機能することはなく、早晚、社会そのものが解体の危機を迎えることになるはずである。

逆に、その社会に生きている人たちの多くが、互いに他の人たちのことを知りたがっている人間で、機会を得ていい関係をつくり、一緒に何かすることを楽しみにし、自分ができることを誰かのために進んでやることを喜びにするような人間であったとしたら、誰にとっても好ましい法律や制度がつくられるだろうし、日々の暮らしを豊かにするような様々な施設が整備されるなど、誰もがいきいき生きている活力のある社会が現実のものになるはずである。

このような社会が現実のものになるのはどうしてか。社会をつくっている人間一人ひとりの質がいいからである。人間の質がいいと言ったが、この場合、具体的には、そこで暮らす人たちが豊かな社会力を身につけているからだと言ってもいい。社会をつくり、構成する人たちが豊かな社会力を身につけてさえいけば、社会はおのずと、住みよい、活力のある、人びとを元気にする社会になっていくのである。

(中略)

社会力とは端的に言えば、「人が人とつながり、社会をつくる力」のことである。「人とつながり、社会をつくる」とは、様々な人たちと良い関係をつくることができ、つくり上げたい人間関係を維持しながら、それまで自分が学んで身につけた知識や、努力して習得した技術や技能などを、自分が生きている社会のここここで、誰かのために、あるいは何かのために役立てようと、自分から進んで発揮し活用するということである。

また「社会のこここ」とは、自分の家庭であり、地域であり、職場であり、あるいは学校であり、所属している団体が活動している場であり、そして時には、限界集落と呼ばれる農村や山村や、遠く離れた被災地などであったりもする。そのように、自分の意志で社会の運営に関わり、社会の一員として何らかの役割を果たすこと、そのことが社会をつくるということである。

(中略)

このような説明が理解できるとしたら、社会を維持し発展させ、その社会の中で人びとが幸せを感じ充実した日々を送ることができ、そうした社会を実現することが、まさに「社会をつくる」ことであり、それを実現するおおもとこそ、「他の人びとと良い関係をつくりつながる」ことにあることも納得してもらえはるはずである。だとすれば、社会力とは、まさにそのような社会をつくるために、構成員一人ひとりが備えているべき資質能力のことであることも、容易にわかってもらえるはずである。

(中略)

「社会力(social competence)」と似た概念に、古くから心理学者などによって使われてきた「社会性(sociability)」がある。社会性とは、今の社会にうまく適応できることを意味している。しかし、近代産業社会と言われる今の社会が様々な難問を抱えて苦悩し、新しい方向への舵取りを余儀なくされている現在、今あるこの社会に適応する能力としての社会性だけでは十分とは言えない。私たちに求められているのは、社会に適応する能力を超えた、社会を変えていく能力すなわち社会力であることに議論の余地はない。

『社会力を育てる―新しい「学び」の構想』門脇厚司著 岩波新書 二〇一〇年より)

問 傍線部について、現在の社会で「社会性」ではなく「社会力」が求められているのはなぜか、あなたの考えを八〇〇字以上一〇〇〇字以内で述べなさい。